

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 5日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2009～2011

課題番号：21682001

研究課題名（和文）

環太平洋の書物流通と日本語文学——戦前期の北米・東アジア・日本を中心に——

研究課題名（英文）The distribution of books and Japanese-language literature in the Pacific Rim: North America, East Asia and Japan before the World War II

研究代表者

日比 嘉高（HIBI Yoshitaka）

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号：80334019

研究成果の概要（和文）：

本研究は、戦前期の環太平洋地域における書物の流通のありさまと、日本語文学の展開について調査分析を行った。近代に入り、さまざまな局面において国境を越える人々の活動が活発化し、日本語をベースにした文化的活動も幅広い領域に広がっていった。本研究は、外地において刊行された日本語新聞や雑誌、そして各地に点在し「日本語文化」を束ねた書店の活動、およびそれらの流通網に注目し、その役割と日本語文学の生成との関連性を考察した。

研究成果の概要（英文）：

In this research, I explored the distribution of books in the Pacific Rim before the World War II and the development of Japanese-language literature. After the modern age, migration of people beyond the borders was accelerated, and a lot of cultural activities in Japanese language spread over the Pacific Rim. I researched the Japanese-language newspapers and magazines published in the “gaichi (Japanese overseas territories)”, the businesses of Japanese booksellers which played important roles as hubs of “Japanese culture,” and of the network of book-distribution that connected each bookseller. Also I considered the relationship between the activities of the periodicals, the bookseller, the network and the emergence of Japanese-language literature.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：出版、外地書店、日本語文学、日系移民、書物の流通

1. 研究開始当初の背景

近代に入り、政治、経済、軍事、さまざまな局面において国境を越える人々の活動が活発化するにしたがって、日本語をベースにした文化的活動も幅広い領域に広がっていった。近年では「日本語文学」と呼ばれるそうした必ずしも使用言語／居住地／作者の国籍が一致しない脱領域的な文学は、ひとまずはこうした人々の国際移動の産物と言える。

だが、こうした日本語文学を支えた文化的社会的基盤について、これまで必ずしもきちんとした基礎的研究がなされてこなかった。個々の作品のもつ越境性や雑種性については分析が加えられ、また個別作家や個別の雑誌・新聞についての研究も相応になされてはきた。だが巨視的に見れば環太平洋一帯に広く進出（侵出）していった「日本語文化」のインフラストラクチャー基盤を、その広域的なネットワークそのものとして見る視点からの研究は、いまだ不十分のままと言わざるをえない。

申請者のこれまでの研究の経緯として、平成 18～20 年度において行った「北米日系移民の日本語文学に関する総合的研究 1868-1945」（若手研究（B）、研究代表者）および「戦前期における日系カナダ移民の日本語文学環境の調査研究」（萌芽研究（研究代表者日高佳紀）、連携研究者）を進めてきたこと、2002 年度に文部科学省在外研究員として UCLA に在籍し、研究課題「20 世紀初頭の米国日系移民のメディアと文学に関する研究」に取り組んだことがあげられる。これらの研究課題の中には、北米の太平洋岸で活動した移民文士たちの日本語文学の考察と、同地域——サンフランシスコ、シアトル、ロサンゼルス、バンクーバーなど——における「日本書店」の調査分析があった。本研究は、直接的にこれら北米についての研究の延長線上に展開されるものである。

2. 研究の目的

北米における日本語書店、新聞・雑誌を中心としたこれまでの研究の過程で痛感させられたのは、書物は日本と北米の間でのみ流通しているわけではないという、あまりにも当然の事実であった。

書物を刊行するのは、ある版元である。だがモノとして存在を始めたそれは、人々の国際移動にともなって整備された物流のネットワークにのり、また人々の個人的な携行物として、活発な流通をはじめた。近代文学研究者が目にし耳にする作家の著作や総合誌、文芸誌が北米において大量に流通していたという事実は、同じ事態がより多くの人々が移動していた東アジア地域においても起こっていたことを容易に類推させた。

この研究では、それゆえこれまでの研究課題を引き継ぎつつ、それを米国本土への重要な中継地点であったハワイや、韓国、台湾、上海など中国本土における書物の流通にまで展開させようとした。

すなわち外地において刊行された新聞・雑誌、また各地に点在し「日本語文化」を束ねまた送り出した書店の活動と、それらを結んだ流通網に注目し、その役割と日本語文学の生成との関連性をめざしたものである。

3. 研究の方法

もちろん、本研究が射程とすべき範囲および作業量は本来膨大なものである。個人が三年間の研究期間で完遂できるのではない。それゆえ、今回の研究範囲としては、(A) 北米の太平洋岸の日本書店と日本語学校などの図書室、(B) ハワイの日本書店、(C) 上海の内山書店、(D) ソウルの日本書店について焦点を絞ることとした。ただし実際には、ソウルについてよりもむしろ、台湾の方に進捗が見られたし、また北米の日系移民の強制収容所における日本語での文学活動について

での考察にも取り組んだ。各地域の日本語文学の展開についても調査分析を進めた。

具体的な研究の項目は以下のような概略である。

- (1) 外地の日本書店、および日本語文学関連の基礎資料について、入手可能なものを購入する。
- (2) 調査時に携行するノートパソコンのほか、研究に必要な備品を購入する。
- (3) 各移民地、居留地における「日本語環境」がどのようなものであったのか、移民新聞や回想資料、出版関係資料などをもとに追跡調査する。
 - ① 日本語新聞紙上の書店広告の分析を進め、いかなる活動を行っていたか調べる。
 - ② 日本の出版関連業者の関連資料を収集分析する。
- (4) 日本語文学の分析を行う。
- (5) 海外出張調査を行う。

4. 研究成果

初年度の平成 21 年度においては、まず基本的な研究環境の整備から入った。ノートパソコンなどの必要器機についても購入した。

研究内容としては、まず北米への出移民に関連する案内書についての調査分析を行い、それらの言説が、どのように移民希望者たちに訴えたのかを、文学の表現の持つ想像力との関連性のもとに考察した。これについては別掲の論文「移民の想像力——渡米言説と文学テキストのビジョン——」を発表している。従来は歴史学や社会学などからのアプローチの考察が多かったことに対し、想像力というキーワードを対置し、文学的表現が持つ訴求力から出移民の言説の問題を考察したことが、本研究の意義であると考えている。

環太平洋の日本書店網に関する本研究の現時点における報告を、カリフォルニア大学バークレー校の学会において報告も行った。北米の書店網に力点を置いて話したが、他領域の研究者と意見交換も生まれ、有意義であった。

また東アジアへの日本書店の進出についても、徐々に調査を始めている。まずは全体

像についての概略の把握を行うために、日本の出版史関連資料をもとに、書物の流通網の形成と変容、また各地の書店の組織化のようすから書店数と増加の様態などについて、歴史的な把握を試みた。とりわけ、満洲と朝鮮を中心に展開した大阪屋号書店のネットワークについて注目し、関係する資料の収集および考察を行った。

平成 22 年度は、まず海外調査として台湾および韓国において、戦前の日本人町の書店についての図書調査および現地調査を行った。

台湾においては、台湾大学での資料調査を行い、戦前の台北における主要書店についてのよい資料の発見などに恵まれた。台湾政治大学では、大学院の授業に参加して戦前台北の日本人書店についての講演「〈外地書店〉から見える近代日本の出版文化と文学」を行い、教員や大学院生たちと討議し、得るところが大きかった。また台中に赴き、台中の旧日本人街の現地調査を行い、中興大学の教員と意見交換も行った。

韓国では東国大学において「第二次世界大戦以前における〈外地書店〉の展開」という講演を行った。韓国文学および韓日比較文学を専攻する教員、大学院生たちが参加し活発な質疑が交わされた。ソウルでは国立図書館にも調査に行き、戦前ソウルの日本人書店についての資料を入手した。ソウル市内において、旧日本人街の現地調査を行った。

また、今年度は米国の日系移民が第二次世界大戦下に強制収容された際、収容所において刊行されていた諸雑誌についての分析も行った。その研究報告を、韓国の高麗大学において「境域から読めること——日系アメリカ移民の日本語文学——」と題して行い、また同名の論文を『日本研究』（高麗大学、2011. 2）にも掲載した。いずれも雑誌『怒濤』『鉄柵』などで活動していた、ある日系人文士の評論を読み解くことから、作業を行っている。

平成23年度は三年間の研究計画の最終年度に当たるため、個別の研究課題の進展をはかるとともに、全体の総括をするべく作業を行

った。

まず個別の作業として、出版法制史研究会第5回例会において「外地への書物流通・序説——書店、取次、法制——」と題する研究発表を行った。これは、戦前の外地における日本書店の展開と、内地／外地を結んだ書物流通を考える本研究の課題に、出版法制史の問題系を交差させる試みだった。戦前外地の関連法規を横断的に比較検討し、総体を展望しようとした。

またこの発表で積み残した課題は、近代文学系の研究グループ・不勉強会において、「戦前における外地／内地を結ぶ書物流通」として発表し、さらに展開させた。

また、前年度研究報告をふまえて雑誌に発表した論考「境域から読めること——日系アメリカ移民の日本語文学——」をもとに、大幅に加筆発展させて「〈文〉をたよりに——日系アメリカ移民強制収容下の文学活動」を韓国で出版された論文集に発表した（韓国語訳されて発表）。強制収容所時代に発行された日本語雑誌の記事、創作を分析し、境域を越える〈文（ふみ）〉の働きを考察したものである。

また2012年3月に上海の旧日本人街において内山書店を中心とする日本人書店についての現地調査を行った。復旦大学の李征氏などと意見交換も出来、有意義だった。

三年間になされた個別の研究はいずれも、先行の研究が手薄な領域においてなされた調査分析であり、先駆的な作業だったと評価している。これをふまえて総合的な研究報告を急ぎたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

日比嘉高「移民の想像力——渡米言説と文学テキストのビジョン——」『JunCture』超域的日本文化研究 (名古屋大学)、査読なし、1号、2010、pp.48-63

日比嘉高「境域から読めること——日系アメリカ移民の日本語文学——」日本研究 (高麗大学・韓国)、査読なし、15号、2011、pp.127-150

[学会発表] (計 4 件)

日比嘉高「The Flow of Books and Japanese (Language) Literature」UC Berkeley Center for Japanese Studies Conference, "Japan and Japanese America: Connections Across the Pacific Rim," 2009年10月10日, David Brower Center, 2150 Allston Way, University of California Berkeley

日比嘉高「境域から読めること——日系アメリカ移民の日本語文学——」国際シンポジウム「帝国日本の移動と東アジア植民地文学」、2010年10月8日、高麗大学(ソウル市)

日比嘉高「外地への書物流通・序説——書店、取次、法制——」出版法制史研究会 第5回例会、2011年6月11日、中京大学(名古屋市)

日比嘉高「戦前における外地／内地を結ぶ書物流通」不勉強会、2011年10月1日、早稲田大学(東京都新宿区)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日比嘉高 (HIBI Yoshitaka)
名古屋大学・文学研究科・准教授
研究者番号：80334019

(2) 研究分担者

(なし)

(3) 連携研究者

(なし)